

# 1 上館跡(馬場愛宕神社)

16世紀半ば、当時の主要な二つの街道を見下ろす標高240mの山の上に、秋保家の分家馬場秋保家の秋保盛義(加沢左衛門)が築いた館です。複数の土壇と空堀を施した無類の堅塁で、今では木が生い茂り視界を遮っていますが、その頃は所領を一望のもとに収めることができたでしょう。ここから馬場秋保氏の歴史が始まりました。館跡には現在火伏の神「馬場愛宕神社」が祀られています。



# 2 大雲寺(秋保家御廟)

本城のあった橋山を正面に見るように、仙台藩で老職を務めた第23代秋保氏盛など藩政時代後期の領主と室の墓が並んでいます。この地を治めた秋保氏の歴史を感じさせるスポットの一つです。



# 3 加沢ため池(加沢堤)

長袋地区に広がる田んぼに清らかな水を供給し、おいしい「秋保米」を育てる水がめが加沢ため池(加沢堤)です。水源の黒森山と戸神山を水面に写し込んだ様子は、単にため池にしておくだけでは惜しいような、そんな美しさも兼ね備えています。



# あるく 駅・加沢



# ★ 加沢水路隧道



加沢ため池(加沢堤)のすぐそばには驚きの地域遺産があります。人が立てるほどの高さで、長さが数十メートルもある手掘りの隧道です。先人がコツコツと少しずつ掘り抜いた現役の水路です。

# 街道の集落「駅」



# 6 銀白の奇勝 白岩



豊後館跡のすぐ南側、名取川右岸の山腹に高さ200mにも達する銀白の大岩壁、白岩がそびえています。凝灰岩が長い時間をかけて浸食され、面白い景観が出来上がりました。春は桜、夏の青葉、秋には紅葉、冬の雪化粧と、それぞれの風情で癒してくれます。朝日を浴びて岩肌が輝く瞬間は出色です。かつてみやぎ新観光名所100選(河北新報社)の一つに選ばれています。

# 5 豊後館跡

16世紀末戦国時代も終焉に近づく頃、二口街道をめぐる防衛強化のため、馬場秋保氏三代目となる摂津守定重が上館から移転整備したのが豊後館です。現在の駅の町並みもこの頃に形づくられたと云われます。名取川と小滝沢の断崖を利用した舌状の天然の要害で、100mに及ぶ土塁や枡形虎口を配した二口街道随一の堅固な要塞です。天正19年(1591年)、伊達政宗の命により、最上に内通した桃生郡深谷の領主長江月鑑斎を誅殺した場所としても知られています。



豊後館跡から白岩を臨む

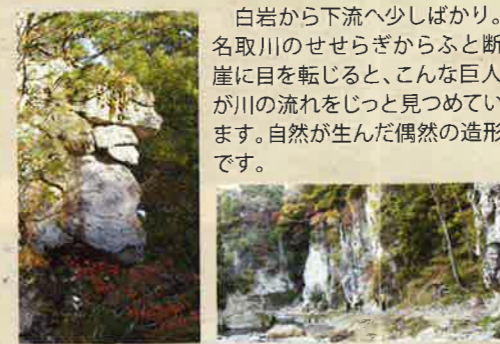


今に残る虎口の石垣



名取川左岸の断崖の上が豊後館跡

# ★ 人面岩



豊後館跡断崖下の名取川

白岩から下流へ少しばかり。名取川のせせらぎからふと断崖に目を転じると、こんな巨人が川の流れをじっと見つめています。自然が生んだ偶然の造形です。

# 4 小滝沢橋(めがね橋)



駅と加沢の境となる沢に架かっている苔むしたアーチ型石橋が、通称めがね橋といわれている旧小滝沢橋で、かつては県道橋として路線バスも渡っていました。地元元石ヶ森産の石で昭和14年に造られました。市の有形文化財に指定されています。

# ★ 小滝沢峡谷

豊後館跡東側の小滝沢は、小滝沢橋まで穏やかだった流れが、それを過ぎた途端に断崖に挟まれた、まさに峡谷と呼ぶにふさわしい険しい姿に変わります。幻の「けんべいの滝」も容易に人を近づけてくれません。



★の場所は、安全のための装備や案内が必要です。